

2020

東京都

日の出町町勢要覧

Hinode Machi

自然いっぱい 魅力いっぱい。



ごあいさつ

昭和30(1955)年6月1日、当時の大久野村と平井村が合併して、「新村・日の出村」が誕生してから65年が経ちます。また、昭和49(1974)年6月1日には、日の出村から日の出町へ全国で1976番目の町として町制を施行いたしました。今年で合併65周年の記念すべき年を迎えることができましたことを、町民の皆様とともに心からお慶び申し上げます。

令和元年10月、台風19号(令和元年東日本台風)が関東甲信越・東北地方へ甚大な被害をもたらし、日の出町においても道路の寸断、集落の孤立などの被害が発生しました。被害に遭われた方には心からお見舞い申し上げます。この災害を教訓にし、自分の命は自分たちで守るという考えに立った防災対策の確立を急がねばなりません。

また近年、景気動向は緩やかな回復が続いているとされていますが、その恩恵が町にいきわたっているとは考えにくく、厳しい状況が今後も続くものと思われまます。Society(ソサエティ)5.0時代や、今後到来する人口減少社会に今から対応するためにも、町の行財政制度の在り方について広く検討を進め、次の世代へ持続可能な行政を引き渡していくことが重要です。町民の皆さんが安全・安心で快適な生活を営み、将来に明るい展望を抱けるよう、不断の努力を続けてまいります。

町では、「みんなでつくろう 日の出町! 安心・躍進・自立のまち」を合言葉に、活気あふれる、心身ともに豊かな、輝かしい日の出町を創りあげるために、第五次日の出町長期総合計画を令和2年に策定し、令和7年度末までの6年間の日の出町の目指すビジョンと方向性を明らかにするとともに、これを具体化するため、6つの施策の柱(プラス1)を定め、計画的に各施策を推進してまいります。

- 1 ひのでA(安全)・A(安心)大作戦
- 2 子育て支援の充実とお年寄りにやさしいまちづくり
- 3 元気のある活気に満ちた商工観光業・農林業の振興
- 4 豊かで創造性に富んだ児童・生徒を育成するための教育の充実による人づくり
- 5 総合文化体育センターの設置推進
- 6 環境先進都市ふるさと日の出の推進

町は、今後とも、行政・財政両面の円滑な運営に力を注ぎ、日の出町発! 少子化対策及び長寿化対策を継続し、発展させて行くことをはじめ、教育の充実や、平井・川北地区の「ひので野鳥の森自然公園」の利活用と保全、商工農林業及び観光の振興、特に災害に強い安全・安心に住める町づくりという行政としての重要課題への取り組みや、更に「環境先進都市ふるさと日の出」を基調に、環境に配慮した町づくりを進める拠点となる総合文化体育センターの設置に向けての検討などの多くの事業を推進し、この町に住んで良かったと喜ばれる日の出町の創造にまい進してまいります。

このたび、合併65周年を記念し、発行するこの町勢要覧により日の出町の概要がご理解いただければ幸いです。

結びに、日の出町の限りない繁栄と町民の皆様のご健康を祈念して、発行のご挨拶といたします。

日の出町長 橋本 聖二

Contents

| | |
|---------------------------------------|----|
| 町長挨拶 | 2 |
| 巻頭特集 | |
| 日の出町 輝 Shining people | 4 |
| pickup EVENT! | 7 |
| 子どもたちが描く10年後の日の出町 | 8 |
| 日の出町 Topics | 10 |
| みんなでつくろう 日の出町！ 安心・躍進・自立のまち | |
| 1 ひのでA(安全)・A(安心)大作戦 | 12 |
| 2 子育て支援の充実とお年寄りにやさしいまちづくり | 14 |
| 3 元気のある活気に満ちた商工観光業・農林業の振興 | 16 |
| 4 豊かで創造性に富んだ児童・生徒を育成するための教育の充実による人づくり | 18 |
| 5 総合文化体育センターの設置推進 | 20 |
| 6 環境先進都市ふるさと日の出の推進 | 21 |
| 行政 | 22 |
| 議会 | 23 |
| 日の出町イベント歳時記 | 24 |
| 日の出町の歴史をたどる | 27 |
| 日の出町 資料・統計 | 31 |
| 日の出町イラストマップ | 34 |



人気集める週末の朝市 地元にも商工会にも活気

日の出町では町商工会が年に5回、町内で「ひので朝市」を開催しています。新鮮な野菜や総菜、アクサセリーや金物まで、様々なものがお手頃価格で並び、毎回多くの人でにぎわっています。

地元商店のおすすめがずらり 開店前から人が集まる人気ぶり

「ひので朝市」は、商工会のメンバーが地域のみなさんに地元の店をもっと知ってもらう機会にしようと実行委員会を立ち上げ、15年前からスタートしました。

毎年3、6、9、12月の第1土曜日（3月のみ、第2土曜日以降は町商工会の駐車場を会場に、7月の第1土曜日は大久野地区のゲートボール場を会場に開催。地元飲食店の人気メニューをはじめ、作りたて惣菜や焼きとり、お弁当にジャムやソース類、燻製品、アクセサリー、金物や自動車まで、地元商工会ならではの多彩な店が毎回10店以上並びます。

各店のおすすめ商品がお手頃価格で買えるとあって、会場には開始前から人が集まり、終了時間よりも前に売り切れてしまうものもあるほどの人気ぶり。実行委員会の宮田和樹委員長は「いろ

いろなものを一カ所で買い物ができ、お買い得商品も多いので、毎回、楽しみに来てくれる顔なじみのお客さんが増えていきます。長く続けてきていることで、多くの人に朝市を知ってもらえるようになりました」と笑顔で話します。

実行委員会では年に数回意見交換会を開いていて、地域の人たちにより楽しんでもらえる朝市にしようと話し合いを重ねてきています。

改善や新たな取り組みの導入なども進めてきていて、「その中で取り組み始めた抽選会は、多くの人に楽しんでもらえるように300円以上の購入で1回抽選できる設定にしています。景品も誰もが使う日用品でみなさんにとっても喜ばれています」と宮田委員長。景品とともに、地元商店のみなさんの想いもしっかりと届いているようです。



その日の朝に作ったばかりのお団子や総菜、採りたての野菜など、新鮮なものがずらりと並びます。

出店者は15年の間に一時減ったこともあったそうですが、ここ数年はまた増えていて、「毎回楽しみにきてくれる方と顔なじみになれたりすると、やっぱりうれしいですね。朝市で購入していただいたのをきっかけにお店の方にも足を運んでくれるようになったり、注文をいただいたり、お客様が広がっているなと思います」と手応えも実感しています。

「これからも地域の方たちにさらに喜んでもらえるように、もっと幅広くいろんなものを買える朝市にしていきたいよう、みんなで協力して盛り上げていきたいと思えます」と力強く語る宮田さん。

朝市は単に買い物を楽しんでもらう場だけでなく、地域と地元商店をつなぎ、日の出町にさらなる活気をもたらす大切な取り組みになっています。



様々な商店が出店しているひので朝市は、地域の人たちとの交流も楽しみのひとつ。自然と笑顔が広がります。



ひので朝市
実行委員会
宮田和樹さん

「仕出しお弁当「ミヤタ」の店主で、ひので朝市には第1回から出店。2015年から実行委員会の委員長を務めている。」

町も先輩農家も 新規就農者をバックアップ

トマトやキュウリなどの野菜の生産をはじめ農業がさかんな日の出町では、新規就農者を支援する取り組みにも力を入れています。

栽培指導や助成を受けながら 安定経営をめざして奮闘中

日の出町では、平成27年度から新規就農者を受け入れ支援しています。

町農業委員会が中心となり、後継者不足などで耕作されていない土地を調査し、新規就農者へ集積を行っています。

また町では、就農初期からパイプハウスや農業機械の導入が対象の補助事業を行っています。

農業技術指導については、東京都の認定を受けた指導農業者が行っています。令和元年度までに5人の新規就農者が農家としてスタートを切っています。

平成27年度に認定された門馬睦さん、優子さん夫妻は1.5ヘクタールの畑でネギや白菜、プロッコリーなどの野菜を生産しています。農地の確保や機械、施設の導入に取り組みとともに、地元農家とも積極的に交流。「気軽に機械を貸してくれ

たり、栽培のアドバイスをしてくれたり、本当に助けられました。農業を続けてこられたのは地元農家さんのおかげです」と地域のあたたかさを実感しています。

平成30年度に認定された野崎智経さんは、25アールの農地で小松菜を生産しています。農家になる前は都内でIT系の仕事をしていたそうで、「指導農業者や先輩農家の方たちに一から習うことができたので始められました。新規就農者同士つながりも強く、生活も含めて情報交換できるのは心強いです」と仲間の存在も大きな支えになっているといいます。

一方、迎え入れている農業委員会の神田功会長は「新規就農者の多くが町の直売所をメインに出荷していて、どの野菜もお客様の人気を集めています」と、新規就農の課題の一つである販路の確保も

順調にできていると話します。

また代々トマト農家をしている農業後継者の野口雅範さんは「高齢化などで農業従事者が減る中、仲間が増えるのはうれしいこと。みんなで一緒に農業を盛り上げて、子どもたちが憧れる職業にしていきたいと思います」と日の出町の農業の未来に向けて、ともに頑張っていきたいと張り切っています。



日の出町で代々トマト農家を営む農業後継者の野口雅範さん。トマトを見つめる眼差しから想いが伝わってきます。



直売所の感謝祭で焼きそばと焼きとうもろこしの店を出した新規就農者と農業後継者のみなさん。来場者に大人気でした。



日の出町農業委員会会長 神田功

坂元崇

門馬優子

門馬睦

青木崇

野崎智経

馬場貴之

野口雅範

次代に伝え継いでいく 日の出町の郷土芸能

お囃子や舞などの郷土芸能も盛んな日の出町では、地元の子どもも大人も一緒になって取り組み、地域の文化を伝え継いできています。

みんなで楽しみながら地元の伝統文化を継承。

地域で大切に受け継がれてきている郷土芸能を保存し、次代に継承していこうと取り組んでいる日の出町郷土芸能保存会は、お囃子をはじめ、鳳風の舞、獅子舞など11の保存会が加盟し活動しています。

そのひとつ、「幸神囃子保存会」は毎年春に大久野幸神地区の幸神神社で行われる祭礼などで重松流祭り囃子を奏でていきます。平井に伝わった重松流祭り囃子が五日市を経て伝わったといわれていて、平井の重松流祭り囃子とともに町の文化財に指定されています。

60年以上にわたり祭り囃子を受け継いできている幸神囃子保存会は現在、約30人が活動しています。小学校入学前の子どもから70歳代まで幅広い年代の人が毎週地域の自治会館に集まり、練習を重ねています。「幼いころから、神社から笛や太鼓の音色が聞こえてくると、お祭りだなんてワクワク



幸神神社の祭礼で奏でられる幸神囃子。5人囃子や踊りも披露されます。

保存会のメンバーは毎週集まり、お囃子や踊りの練習を重ねています。



小嶋奏さん

中澤蓮衣くん

幸神囃子保存会連長
岡部泰人さん
18歳の時に地域の消防団の仲間から誘われて幸神囃子保存会に入会。以来、40年近く活動を続けてきている。



ワクワクしますね」と話すのは同保存会の連長を務める岡部泰人さん。若い頃から40年近く幸神囃子に取り組んできています。

「メンバーの中には50年以上活動している方もいて、地域の昔の話を聞けたり、知らなかった人と知り合えたり、いろんな人とつながれる場になっています。年齢に関係なく、みんなで一つのことに取り組めるって祭りにならないですかね」と岡部さん。

毎週行われている練習には多くの人が集まり、大人が子どもたちを指導するのはもちろん、中高生が小さな子どもたちに丁寧に教えていたり、真剣な表情で練習に打ち込む小学生の姿も見られます。

親子で参加している人も多く、大久野小6年の中澤蓮衣くんもそんな一人。「お母さんのお腹にいる時から練習にきています。みんなに会えるのがうれしいし、お祭りで披露

するのはすごく楽しい」と笑顔を見せます。大久野中3年生の小嶋奏さんも物心ついた頃には参加していたそうで、半年前からは念願だった横笛を始めました。「お囃子は独特のリズムで難しいけど、すごく奥深いので飽きることがありません。ずっと続けていきたいです」と目を輝かせます。

4年ほど前からは毎年、地域の高齢者施設の訪問も行っていて、地元の文化を楽しんでもらうとともに、子どもたちとの交流も楽しんでもらっています。

「お囃子に取り組むことで、私たち大人も子どもたちもたくさんさんの貴重な経験をさせてもらっています。これからも伝統あるお囃子を受け継いでいけるよう、みんなで楽しみながら取り組んでいきたいと思えます」と想いを込める岡部さん。伝統芸能の継承は地域の文化を継ぐとともに、人と人との大切なつながりも育んでいます。



日の出町 町内23団体の施設が参加
ハートワークフェア2019 開催

町民の pickup EVENT! 笑顔のために

日の出町の誰もが安心して笑顔で暮らせる町づくりに向けて、町内の福祉に関わる事業所が業種や職種を超えてつながり、その仕事の魅力を発信しています。



町内の子育てや高齢、障がい、医療に関わる23事業所が集まり、2017年から毎年「日の出町ハートワークフェア」を開催しています。

それぞれが想いを持って取り組んでいる自らの仕事を「ハートワーク」と名付け、子育てや高齢などをテーマにしたトークセッションやワークショップ、ライブなどを通して、地域の人にハートワークの魅力を広く伝えています。

中でも人気を集めているのが、町内のケ

アマネジャーなど介護従事者を中心に設立したボランティア団体「お年寄りスペクト隊」が繰り広げる認知症の寸劇や健康体操です。介護の仕事についてもっと知ってもらおうと団体を結成し、考案した健康体操は2018年の全国ご当地健康体操甲子園で優勝を飾り、フェアでも会場を訪れた人みんなを楽しませています。

「健康体操や寸劇で介護を明るく表現することで、みんなが介護について考えやすくなり、地域との距離も近くなっています」と隊長の田村泰志さん。副隊長の岡部雅子さんも「ケアマネ同士につなが

りができ、仕事でも連携を図れるようになりました」と話します。フェアの参加者は年々増えていて、実行委員会の山本健明会長は「フェアを機に福祉関係に興味を持ち実際に就職した人もいて、業界のイメージアップと人材確保につながっています」といいます。また、様々な事業所が繋がったことで分野を超えた包括的な支援が可能になってきているようで、「この活動をきっかけに事業所だけでなく地域全体が繋がって、住民みんなで支え合える町にしたい」と力を込めます。

りができ、仕事でも連携を図れるようになりました」と話します。

フェアの参加者は年々増えていて、実行委員会の山本健明会長は「フェアを機に福祉関係に興味を持ち実際に就職した人もいて、業界のイメージアップと人材確保につながっています」といいます。

また、様々な事業所が繋がったことで分野を超えた包括的な支援が可能になってきているようで、「この活動をきっかけに事業所だけでなく地域全体が繋がって、住民みんなで支え合える町にしたい」と力を込めます。

「全国ご当地健康体操甲子園～舞えんのか?～優勝報告」



橋本町長へ優勝報告!
町おこしを兼ねて2020年には初の東京開催が日の出町で行われました。

日の出町 ハートワークフェア
実行委員会会長
山本健明さん

ハートワークとは福祉関係の仕事だけでなく、一人一人の想いや心意気だと思います。その想いが地域全体でつながってほしいです。

お年寄りスペクト隊
隊長 田村泰志さん
副隊長 岡部雅子さん

小さな町だからこそいろんな人とつながれて、人情こい人が多いのが日の出町の魅力です。さらにつながりの輪を広げていきたいと思っています。



日の出町の町立小学校(大久野小学校・本宿小学校・平井小学校)に通う10歳(小学4年生)の子どもたちに、10年後の日の出町の姿を想像し、絵で描いてもらいました。子どもたちがちょうど20歳となる10年後は、どんな町になっているでしょうか？子どもたちの瞳に映る未来の町はどんな姿をしていますか？



子どもたちが描く 10年後の日の出町



本宿小学校 4年2組 木住野 陽介(きしのようすけ)さん



本宿小学校 4年3組 月岡 慶汰(つきおかけいた)さん



大久野小学校 4年2組 原 蹴人(はらしゅうと)さん



平井小学校 4年1組 長谷 杏梨(ながたにあんり)さん



平井小学校 4年2組 市川 芽依(いちかわめい)さん



平井小学校 4年2組 深沢 大智(ふかさわだいち)さん



本宿小学校 4年1組 松本 知夏(まつもとちなつ)さん



大久野小学校 4年2組 神田 ちひろ(かんだちひろ)さん

日の出町 Topics

我が町・日の出、近年の出来事

近年の日の出町における2つのトピックスについて取り上げます！

包括協定結ぶ亜細亜大と 多彩に交流

日の出町と亜細亜大学は、これまでも協力関係にありましたが、より一層その連携協力を深め、人的・知的資源の交流及び物的資源の活用をし、相互に協力して人材育成と地域社会発展に寄与することを目的に、2016年4月に包括的協働・連携協力に関する協定を締結し、ボランティア協力を中心に運動部や吹奏楽団の学生と、町民の方との交流を進めています。

2019年5月には同大が日の出キャン

パスで開催している体育祭が60回を迎えたことを記念して、町内の小学生から参加者を募り、3つの小学校から26人が参加。大学生のチームに交じって玉入れをしたり、大学生とペアを組んで障害物競走に挑戦するなど4競技に出場。競技の間には大学生と一緒に会話を楽しんでいる姿も多く見られました。

友達と参加していた本宿小6年の金子莉央さんは「お兄さん、お姉さんといっぱい話ができ、一緒に写真も撮ってすごく楽しかった」と満面の笑みを見せました。



60回記念体育祭 町内小学生も活躍!



体育祭の会場には日の出町から飲食の屋台も出店していて、小学生たちは競技の合間に垂細亜大からプレゼントされた金券で買い物も楽しんでいました。



大学生とすぐに打ち解け、肩車してもらったり、追いかっこなどをして楽しんでいた小学生たち。笑顔がはじけていました。

笑顔いっぱいの体育祭に 今後も交流を進めていきたいです



体育祭実行委員長
都市創造学部4年
内野 樹さん

記念の体育祭を日の出町の小学生に楽しんでもらいながら思い出に残るものにしてしようと、みんなで話し合いを重ねて準備を進めてきました。様々なところで学生と小学生が交流する姿が見られ、笑顔がいっぱいの体育祭になりました。これを機に、さらに日の出町との交流を進めていければと思います。



平成28年11月「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」セレモニーの様子。リオの風を浴びたフラッグが日の出町にやって来ました!

2020年、東京で、世界的なスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。また、オリンピックの象徴である聖火が開会式会場を指して各地を巡り、日の出町へもやってきます。

町は「観て楽しむだけでなく、参加して楽しむ」ことで盛り上げていきたいと思っています。

世界中の人が参加するスポーツの祭典を、皆さんも楽しみましょう!

東京2020
オリンピック・
パラリンピック
競技大会が
開催されます!

関連事業やイベントで
盛り上がりを見せる



東京都

みんなで作ろう 日の出町!

安心・躍進・自立のまち

まちの将来像「安心・躍進・自立のまち」の実現を図るため、6つの施策の柱(プラス1)を定め、計画的に各施策を推進していきます。

1 ひので A(安全)・ A(安心)大作戦

消防団 ポンプ操法審査会

日の出町消防団は隔年6月、日頃の訓練の成果を披露し団員の士気を高めています。と、消防ポンプ操法審査会を行っています。本部分団と第1分団から第4分団まで約150人の団員が集結し、小型動力ポンプや自動車ポンプでの消火活動の迅速さや確実さなどを競っています。会場には毎回多くの町民も訪れ、真剣な表情で操作に取り組む団員の姿を見守り、声援や拍手を送っています。

また消防団は火災時の消防活動や防災訓練だけでなく、地域のお祭りやイベントの警戒活動などでも活躍していて、町の安全と安心を守る大事な役割を担っています。



消防団団長
原田 充さん



日の出町消防団は地域の安全を守り、町民のみなさんが安心して暮らしていけるように、火災予防の啓発活動や火災時の消火活動、防災訓練などを行っています。

団員はみんな仕事や家庭の合間をぬって活動しているので忙しいですが、地域を守るという強い思いを持って取り組んでいます。同じ思いを持って活動する仲間とのつながりも深く、そんな仲間ができることも消防団の良さです。今後も仲間をもっと増やし、地域の安全のために活動していきたいと思っています。



女性消防隊

日の出町では平成6年から女性消防隊が編成され、8人の隊員が活躍しています。女性消防隊は女性ならではの細やかな視点を活かしながら活動していて、防災訓練のときなどには町民に対して、AEDを使った応急救護法を指導しています。消防団の後方支援隊として地域の火災予防、応急救護などの指導・広報活動を中心に一丸となって取り組んでいます。全隊員が上級救命の資格を取得していて、災害時の活躍も期待されています。

女性消防隊長
川岡和子さん



女性消防隊は、40代50代を中心に現在8名で応急救護の指導や広報活動等を行っています。火災の現場に出動はしませんが、女性の視点を防災に活かしていこうと、みんなで無理なく仲良く楽しく取り組んでいます。

活動を通じ、より防災や救命への意識が高まりました。日常で出くわした救命の現場で止血などの応急処置ができたことも訓練の成果だと思います。

今後はさらに隊員を増やし、日の出町の安全安心の為に活動をしていきたいと考えています。



総合防災訓練

過去の大災害を教訓とし、自治会や消防団などの防災関係機関が相互に連携して総合的な防災訓練を実施しています。町民の防災や減災に関する意識を高め、「みんなであつくりよう安全・安心のまち」を推進します。



交通安全協会

日の出町の交通安全を図るため、毎月の交通安全日での道路交差点立哨や交通安全キャンペーン、町のイベント等での交通整理などの活動をしています。



防犯協会

特殊詐欺被害を防止するため、年金支給日に町内の各金融機関前でのキャンペーンや、イオンモール日の出店での万引きや自転車盗被害防止パトロール、町のイベントでの警戒パトロールを行っています。



町道の整備

町民の皆さんが利用される道路については、利便性の向上と維持管理のため舗装打換え工事等を行っています。



防犯パトロール

各自治会や有志の方々でパトロール隊を結成し、高齢者を狙った特殊詐欺や空き巣被害の防止、また子どもたちが犯罪被害に遭わないため、通学時間や夜間を含む町内パトロールを行っています。



公共交通の利便性向上

より良い生活交通の確保のため、コミュニティバスの運行などについて、地域実態に即した利便性のあるものにするために地域公共交通計画を基本に検討を重ねていきます。



2 子育て支援の充実とお年寄りにやさしいまちづくり

子育て

日の出町子ども・青少年育成基本条例について

日の出町は、次世代を担うこともと青少年たちが安全に、健やかに成長することを願い、子どもと青少年たちが、将来、日の出町発展の原動力となることを期待して、子どもと青少年にやさしい町を実現するために、日の出町子ども・青少年育成基本条例を制定しています。

施策として、次世代育成クーポンの交付や青少年育成支援金の支給を行っています。

次世代育成クーポン

0～15歳の子ども1人につき、月額1万円のクーポンを交付しています。クーポンは、町内の登録店舗や、育成経費（保育料、給食費等）の支払いに使用することができます。子育て支援と地域経済の活性化を図ります。



次世代育成クーポン



このステッカーが貼ってあるお店で使っていただけます。



医療費助成

子どもの保健の向上と健やかな育成のため、マル乳マル子制度に加え、高校生年代の医療費の自己負担分を助成し、無料化しています。



青少年育成支援金

青少年（中学校卒業後～18歳までの高校生世代）にかかる学費等の経費の一部について、申請に基づき現金を支給して助成しています。将来の日の出町の原動力となる青少年の修学、就業意欲を高めます。

子ども家庭支援センター

子ども家庭支援センターは子育ての総合相談窓口であり、0歳～18歳までの子どもと家庭に関するあらゆる相談を受けています。必要に応じて、各種情報の提供、専門機関やサービスの紹介をしています。「ママさんヨガ」など、乳幼児の保護者のみなさまを対象に、様々な事業を行っています。



秋川流域病児・病後児保育室「ぬくもり」

日の出町、あきる野市、檜原村が連携し、子育て中の方が安心して子育てと就労の両立などができるよう、平成30年度から病児・病後児保育事業を実施しています。

保育室は、公立阿伎留医療センターの敷地内に設置しており、病気中や病気の回復期にあり、保護者が仕事などにより家庭で保育を行うことが困難なお子さんをお預かりしています。

高齢支援

高齢者外出支援バス

町内を循環するバスで、町内に住所を有するおおむね60歳以上の在宅の方なら、無料でどなたでもご利用できます。4つのルートがあり、1時間に1本のバスが病院や町役場、老人福祉センター等をむすんでおり、自由乗降できます。年間約4万8千人が利用しており、自立した日常生活の継続に大きく貢献しています。



外出支援バス・さくら号



外出支援バスに試乗する町長

橋本町長も乗車しました!



外出支援バス・わかば号

外出支援バス運転手 榎戸 茂さん

外出支援バスの運転手として働く榎戸さんは、利用者の方との会話等を楽しみながらお仕事をされています。「地元に住んでいてもまだまだ知らない事もあり、町の魅力的な部分も運転をしながら発見できる。」と笑顔で語ってくれました。



老人福祉センター・いきいきセンター

高齢者が気軽に集い、生きがい活動や健康維持活動ができる場を提供しています。町内に4箇所ある施設では入浴サービス(うち3施設は温泉利用)を提供し、心も体もリフレッシュできます。高齢者の健康維持と社会参加が図られています。



平井・生涯青春ふれあい総合福祉センター平面図



高齢者医療費助成・元気で健康に長生き医療費助成

70歳〜74歳までの方、75歳以上の方を対象とした、2つの事業を行っています。町民が安心して医療を受け、健康を保ち続けられるよう医療費自己負担分への助成を行っています。

| 元気で健康に長生き医療費助成申請書 | |
|-------------------|--|
| 氏名 | |
| 住所 | |
| 生年月日 | |
| 健康保険番号 | |
| 申請内容 | |
| 申請理由 | |
| 申請者印 | |

| 市の高齢者医療費助成 | |
|------------|--|
| 申請者氏名 | |
| 住所 | |
| 生年月日 | |
| 健康保険番号 | |
| 申請内容 | |
| 申請理由 | |
| 申請者印 | |



利用者の声

民謡教室のグループのみなさんは、月2回の練習でセンターを利用しています。民謡の練習や練習後に施設内でお仲間と談笑をしたり、お弁当を食べたりと「センターの利用が交流の場であり、健康に楽しく暮らせるためにはなくてはならない場所」と語ってくれました。



健康増進事業の様子



3

元気のある活気に満ちた 商工観光業・農林業の振興

日の出町 ふれあい農産物直売所

木材を多用したシンプルな建物で、町内の農家が作った新鮮な野菜や果物を直売しています。1年を通じて四季折々、毎朝とれたての収穫物が並びます。おいしい野菜を目当てに、町外からも多くの買い物が客が訪れ、町内の農業振興にとって重要な役割を担っています。



農林業

森林整備

土砂災害の防止や

地球温暖化の対策と

いった森林の有する多面的機能を発揮するため、林道を整備して森林施業の機械化や木材の搬出性の向上を進めることで合理的な森林整備を推進していきます。平成29年10月には勝峰山林道の整備が完了し、開通しました。



保育園児による 大根栽培体験

土と触れ合う楽しさと作物を育てる大切さを学んでもらうため食育の一環として町内の保育園児、幼稚園児を対象に、農業委員の指導のもと大根の種まきから収穫までの作業を一緒に体験していきます。毎年、収穫の時に子供たちは満面の笑みで大きく育った大根を抱き上げています。



観光・商工



イオンモール日の出で開催し、町で収穫される農産物や、町の特産品が並び、町の観光や物産を広くPRしています。

採れたて野菜の直売、フリーマーケット、ステージパフォーマンスが行われ、大賑わいのイベントです。

観光&物産フェア



ひのでマルシエ

「新しいことに出会える」をテーマに、ひので肝要の里で開催しています。会場では飲食、物産販売、ワークショップなどの様々なブースが出展し、パフォーマンスやストリートライブなども行われ、肝要の里の活性化、集客力の向上につながっています。

ひのでちゃん 行政ポイントカード事業



介護予防教室やボランティアなど町が行う講演会や各種事業への参加でポイントが貯まります。満点カードと引き換えに町内のひのでカード加盟店舗で買い物ができます。積極的な社会参加の促進、地域の活性化につながっています。

つるつる温泉

アルカリ性のつるつるした感触の湯であることから「つるつる温泉」と名づけられた、首都圏で最も至便な天然温泉です。洋風大浴場である「生涯青春の湯」と和風大浴場の「美人の湯」が週替わりで男湯女湯が入れ替わります。



日の出山荘

昭和58年(1983年)に当時の中曽根康弘内閣総理大臣とロナルド・レーガン米大統領が日米首脳会談を行いました。その後、中曽根氏から日の出町に寄贈され、日米親善と平和を願う場所として一般公開されています。



さかな園

溪流釣りやマスつかみ取りが楽しめます。園内にはバーベキューハウスもあり、釣ったマスを焼いて食べることもできます。



4

豊かで創造性に富んだ児童・生徒を 育成するための教育の充実による人づくり

学校教育

日の出町には公立小学校3校、公立中学校2校があり、合わせて約1,500名（令和元年度現在）の児童・生徒が学んでいます。この町で学び、育っていく児童・生徒に、安全で安心な教育環境を提供することは町政の最重要課題の一つです。教育委員会、総合教育会議並びにPTAをはじめとする町民の方々のご意見を伺い、ソフト・ハードそれぞれの事業について、鋭意取り組んでいます。

学校施設については順次改修を行い、教育環境、衛生環境の改善を図っています。また、学校教育課指導室では平成28年に設置以来、教員の指導力向上を目指し、様々な取り組みを行っています。

教育の充実



学校給食

日の出町の小学校3校、中学校2校の給食を作っています。献立を1カ月ごとに作成し、成長期にある児童生徒の栄養を十分に考慮したバラエティに富んだ安全で安心な手作りの給食を提供しています。また、地元生産者から町内で採れた新鮮な野菜を給食食材に取り入れるなど、地産地消にも力を入れています。



町民大学

町民一人ひとりが自発的な学習を通じて生きがいのある生活を送るとともに、地域社会への誇りを持ちながら、積極的にまちづくりに参画することができるよう生涯学習を進めています。町民の余暇時間の有効活用として、「出会い・ふれあい・学びあい」をテーマに様々な講座を開催しています。



青少年健全育成会

青少年健全育成会は、次代を担う子どもたちの社会性、自立性を養う様々な親子・子ども体験事業を開催しています。



生涯学習、青少年の健全育成



こども体験教室

こども体験教室は、子どもたちに対し、挨拶の重要性の認識及び実践の励行と、体験事業を通じて、学校間を超えたコミュニケーションやリーダーの意識を身に付けた、たくましい青少年の育成を目指して行っている事業です。教育委員会から委嘱された青少年委員会によって、各種の自然体験教室やヒップホップダンス教室などを行っています。



Let'sダンス・ダンス

青少年にダンスを披露する場を提供して、青少年の健全育成を促すことを目的とした事業です。日の出町内はもちろんのこと、町外からもダンスサークルや高等学校のダンスチームなど、数多くのダンスパフォーマーが参加します。ヒップホップダンス、チアダンス、フリースタイルダンスなどの自慢のダンスの披露を行い、多くの観客の方から好評をいただいています。

5 総合文化体育センターの設置推進

総合文化体育センター

日の出町は、未来を担う青少年に夢と希望をあたえ、すべての人びとが健康で明るい文化的な生活の実現を目指し、昭和54年6月に「スポーツと文化の森設置構想」を発表しました。

その集大成と位置づける（仮称）日の出町総合文化体育センターの設置については、平成29年3月に（仮称）日の出町総合文化体育センター基本計画」を策定し、建設に当たっての諸条件を整理し、整備方針を定めています。

本事業は、21世紀の日の出新時代を示す「環境先進都市ふるさと日の出」を基調にした環境にやさしい町の創造を目指しているくうえでも、建設促進に鋭意努力していかねばならないと考えています。



建設予定地
日の出町の山間に位置し、北側には谷戸沢グラウンドがあり、スポーツと文化の森として一体的な利用を想定します。



総合文化体育センターイメージパース

谷戸沢グラウンド

平成10年に谷戸沢廃棄物広域処分場の埋め立てが終わり、跡地利用として「谷戸沢グラウンド」「谷戸沢サッカー場」が整備され、広く三多摩都民の利用に供しています。



6

環境先進都市 ふるさと日の出の推進

処分場受け入れの歴史と これから

日の出町は、昭和50年代、人口の急増によりゴミ埋め立てに苦慮していた、当時の三多摩25市2町、322万人（現在は400万人）の都民から、埋め立てについて切実な訴えを受け、お互いに困った事は助け合う人道的支援に立つとともに、「三多摩は一つなり」の大義に立って、町議会をはじめ地元自治会、さらには町民の皆さまのご理解・ご協力を頂き、ゴミの最終処分場の受け入れを決定しました。

このことについては、昭和59年4月の谷戸沢処分場開場から始まり、二ツ塚処分場さらには処分場の延命はもとよりゴミのリサイクルを目的とした二ツ塚処分場の付属施設であるエコセメント化施設と、実に30数余年に亘って、ゴミに明けゴミに暮れるといっても決して過言ではない重大なゴミ問題に取り組んできました。

今後はゴミの町という負のイメージを払拭すべく「環境先進都市ふるさと日の出」を基調に、環境にやさしい町づくりを進めていきます。



エコセメント化施設



谷戸沢処分場



二ツ塚処分場

ひので野鳥の森自然公園

この公園は、平井・川北地区に位置する面積約97ヘクタールにも及ぶ広大な丘陵地です。過去には大規模開発が検討されたこともありましたが、自然保護の方針へシフトし、平成31年4月に公園として開園しました。

公園内には落葉広葉樹林が広がり、初夏には新緑が、秋には紅葉や落ち葉の風景が楽しめます。



太陽光パネル

地球温暖化対策の1つとして温室効果ガスの排出抑制を目的に、住宅用太陽光発電システム並びに住宅用太陽熱利用機器設置者に設置費を助成しています。



行政

町民の暮らしを支える役場の仕事

町民の信頼と期待に応え、町民と行政の協働を推進して歩むべく、今後も生活環境と住民福祉の向上をめざし、きめ細かい温もりと心こもった行政サービスを行っていきます。



教育長 小林 道弘 副長 木崎 孝二

町長 橋本 聖二



議会

町民の声を反映する開かれた議会

町議会は、町民の代表として選出された14名の議員によって構成されています。町民の声や意見を十分に反映させながら、行政の重要な事柄について審議・議決しています。また、議員によって構成された常任委員会があり、町民からの請願・陳情などの審査や調査活動、また現地調査研究などを行いながら町政の諸問題に取り組んでいます。



副議長 嘉倉 治

議長 濱中 映慈



北京市区人民代表大会友好代表团表敬訪問

東京都区市町村と北京市区との交流は、昭和54年に東京都と北京市が友好都市関係を結んだことを契機に、区市町村の首長側と議会側の双方で始まりました。議会側では、区市町村議会の議長会が3団体共同事業として、昭和58年以降、北京市区人民代表大会との間で代表団の派遣（中国訪問）と受入（日本招待）をほぼ毎年行い、交流を深めています。

日の出町イベント歳時記

町民みんなで力を合わせてまちおこし。日の出町のイベントには人の笑顔と元気が満ちあふれています。手作りの様々なイベントや行事が日の出町にはいっぱいあります。



桜まつり

塩田堤の桜が咲きほころ町民グランドにて、例年4月初旬の土曜日に開催され、多くの模擬店が並び、ステージでは様々な出し物が行われます。



夏まつり

例年7月下旬の土曜日に開催され、郷土芸能、盆踊り、最後は会場の周りで打ち上げられる約1,500発もの花火がまつりを締めくくります。





産業まつり

例年11月上旬の土・日の2日間で開催されます。町内の色々な店や団体の模擬店が約100店も軒を並べます。地元の農産物や特産品の販売などが行われ、一般参加のショーやチャリティーオークションも行われます。



いも掘り

10月に入ると観光イモ掘り農園が開園。青空の下、土に親しみながらサツマイモを掘る家族連れや子どもたちの歓声が響きます。

スポーツフェスティバル (旧 町民体育祭)

町民体育祭にかわり、会場や構成を新たに、スポーツフェスティバルとなりました。青空の下、子どもから大人までスポーツを楽しむイベントです。



玉の内の獅子舞

大久野玉の内地区では毎年8月の第2土曜日に、風祭獅子舞が奉納されます。この獅子舞は雨乞獅子とも呼ばれ、かつては雨乞いなどにも奉納されていたそうです。演者は頭に獅子頭を被りおなかに太鼓を括り付け、1人で1匹の獅子を演じ、3匹の獅子が同時に舞います。この様な系統の獅子舞を「一人立三頭獅子舞」や「風流獅子舞」などと言い、町の文化財に指定されています。

平井の祭り

平井の宮本地区にある春日神社では、毎年秋に大きな祭礼が執り行われます。そのお祭りは毎年9月末頃に平井の道場地区にある八幡神社と同じ日に行われ、町で最も賑やかなお祭りで「平井のおまつり」として親しまれています。八幡神社と合わせて5基の山車が繰出し競り合いを行います。



鳳凰の舞

鳳凰の舞は、全国的にもあまり類例がない貴重な民俗芸能です。下平井の鳳凰の舞として昭和28年(1953)に都の無形民俗文化財に指定された後、平成18年(2006)に国の重要無形民俗文化財に指定されました。江戸風の「奴の舞」と、上方風の「鳳凰の舞」の二庭で構成されていて、それらを総称して鳳凰の舞と呼びます。はっきりした伝承由来の文献はなく、雨乞いや悪疫退散の舞として奉納されてきました。



伝え継ぐ地域伝統の 豆太鼓づくり

日の出町の3地区(新井・萱窪・羽生)では毎年、年の瀬が近づいてくると、縁起物の「豆太鼓」と呼ばれるてんでん太鼓づくりが始まります。新井地区では地域の住民でつくる新井豆太鼓保存会が10月末から毎週集まって豆太鼓をつくり、12月下旬に地域の全戸に配布しています。地元の破竹を切り出してきて太鼓の軸を作るところから始まり、太鼓や上部につける風車づくり、千支の絵や「招福」などの文字入れなどすべてが手作業で、一つ一つ丁寧に、想いを込めてつくっています。千支が描かれた真っ赤な太鼓にカラフルな風車の特徴的な新井の豆太鼓は人気で、近隣の神社や住民からも注文が入るほど。地域の人たちにとって、お正月を迎えるのに欠かせないものになっています。「すべて手づくりなので手間ひまがかかりますが、地域に古くから伝わる伝統の縁起物で、みなさんも毎年楽しみにしてくれているので、できるだけ今年も地域の各戸で、「年の幸せを願って豆太鼓が掲げられます。」



大久野を 明るくする会の イルミネーション

大久野イルミネーションは、地元の有志らによる実行委員会が主催し、大久野地区を通る秋川街道沿いで行われるイベントです。毎年11月末頃から12月末頃まで実施され、冬の久野の夜を彩ります。



元旦マラソン
町民の健康増進を目的に開催されています。遠方からの参加者も増えています。

- (4月) ●桜まつり(塩田堤) ●長井八坂神社祭礼(長井八坂神社)
- (5月) ●妙見宮例大祭(妙見宮) ●花咲きまつり(太陽の家)
- (7月) ●ひので夏まつり
- (8月) ●玉の内獅子舞(三嶋神社) ●双盤念仏(西徳寺)
- (9月) ●春日神社祭礼(鳳凰の舞)(春日神社)
●八幡神社祭礼(八幡神社) ●白山神社祭礼(白山神社)
- (10月) ●いも掘り(いも掘り農園) ●スポーツフェスティバル(旧町民体育祭)(隔年)
- (11月) ●産業まつり(町民グラウンド)
- (12月) ●平井市(平井地区) ●大久野イルミネーション(大久野地区)
- (1月) ●元旦健康マラソン ●元旦御来光(日の出山ほか) ●どんど焼き(町内各地)
●秋川不動尊火渡り(西福寺) ●伊奈澤天神社祭礼(伊奈澤天神)
- (3月) ●幸神社祭礼(幸神社)

イベント・ 祭りカレンダー

日の出山ご来光

日の出町の町名の由来ともなっている日の出山は、ご来光スポットとして最高のロケーションとなっています。



日の出町の歴史をたどる

明治4年からの日の出町の歩みを写真とともにたどります。様々な歩みの中で、日の出町の歴史は形作られてきました。歴史の節目となった出来事を紹介していきます。

- 明治4年(1871年) 廃藩置県により神奈川県に属す
- 明治5年(1872年) 大久野小学校の前身・羽生学舎、細尾学舎、玉の内学舎創立
- 明治6年(1873年) 大久野地区会所(役場の前身)が清源寺に置かれる
- 明治7年(1874年) 大久野地区会所が天正寺に移り戸長役場と呼ぶ
- 明治10年(1877年) 大久野東校(鳳鳴校・西福寺)、大久野西校(朝陽校・光明寺)、平井学校が開校
- 明治15年(1882年) 大久野大火が起こる。幸神の山から出火、大久野村の大部分と平井村北側全域に類焼(大久野焼け)
- 明治17年(1884年) 平井村、菅生村、瀬戸岡村の三カ村が連合し菅生に戸長役場を置く
- 明治22年(1889年) 平井、菅生、瀬戸岡、草花、原小宮が5カ村総合体となる
- 明治26年(1893年) 三多摩郡(西多摩・南多摩・北多摩)が神奈川県より東京府に編入
- 明治27年(1894年) 日清戦争勃発
- 明治30年(1897年) 青梅線開通、福生駅ができる
- 明治37年(1904年) 菅生村外四カ村組合は5137人
- 大正3年(1914年) 日露戦争勃発
- 大正6年(1917年) 第一次世界大戦勃発
- 大正9年(1920年) 平井郵便局が開局
- 大正10年(1921年) 平井村は417世帯、2371人(第1回国勢調査)
- 大正12年(1923年) 関東大震災発生
- 大正14年(1925年) 大久野村611世帯、3385人。平井村は427世帯、2412人(第2回国勢調査)
- 大正15年(1926年) 平井村が五カ村連合から独立し、平井村役場を設置する。平井村の戸数は404戸、人口は2592人
- 大正16年(1927年) 村に電灯が入る
- 大正18年(1929年) 大久野村は587世帯、3280人。平井村は417世帯、2371人(第3回国勢調査)



文化の森第一期造成工事/昭和56年
文化の森第一期造成と平井中学校建設工事



NHKのど自慢/昭和55年
合併25周年事業「NHKのど自慢」の実況放送

- 昭和2年(1927年) 五日市―福生間バス開通
- 昭和2年(1927年) 阿伎留病院ができる
- 昭和2年(1927年) 平井村の諸車台数 馬車7、牛車5、荷車278、人力車4、自転車324、トラック1
- 昭和3年(1928年) 浅野セメント工場建設(現・太平洋マテリアル)
- 昭和5年(1930年) 大久野村824世帯、4218人。平井村431世帯、2441人(第3回国勢調査)
- 昭和6年(1931年) 満州事変勃発
- 昭和10年(1935年) 大久野村818世帯、4202人。平井村434世帯、2336人(第4回国勢調査)
- 昭和15年(1940年) 大久野郵便局が開局
- 昭和15年(1940年) 大久野村815世帯、4234人。平井村429世帯、2439人(第5回国勢調査)
- 昭和16年(1941年) 太平洋戦争始まる
- 昭和17年(1942年) 「シダレアカシデ」が国の天然記念物に指定
- 昭和18年(1943年) 東京都制施行
- 昭和20年(1945年) 米軍のP51戦闘機が大久野中心部を銃撃。日本セメント、役場、小学校、萱窪の一部が被害を受ける
- 昭和21年(1946年) 大久野村の人口4236人、平井村2471人(第6回国勢調査・人口調査のみ)
- 昭和21年(1946年) 日本国憲法公布
- 昭和22年(1947年) 大久野村962世帯、5212人。平井村576世帯、3306人(第7回国勢調査・臨時)
- 昭和25年(1950年) 大久野中学校、平井中学校創立
- 昭和25年(1950年) 朝鮮戦争が始まる
- 昭和26年(1951年) 大久野村968世帯、5260人。平井村541世帯、3176人(第8回国勢調査)
- 昭和26年(1951年) 肝要、松尾、三ツ沢が秩父多摩国立公園になる。
- 昭和26年(1951年) 平井村に公民館が完成
- 昭和27年(1952年) 大久野村公民館が完成
- 昭和28年(1953年) 大久野村立図書館完成(公民館前)
- 昭和30年(1955年) 下平井「鳳凰の舞」が都無形民俗文化財に指定
- 昭和30年(1955年) 市町村合併法により、大久野村、平井村が合併し、新村・日の出村が誕生。初代村長に志茂忠雄
- 昭和31年(1956年) 大久野村991世帯、5356人。平井村531世帯、3131人。計1522世帯、8487人(合併前の1月1日現在)。1541世帯、8305人(第9回国勢調査)
- 昭和31年(1956年) 「大久野の藤(ふじ)」が都天然記念物に指定
- 昭和33年(1958年) 大久野小学校で自校調理方式の学校給食を開始
- 昭和35年(1960年) 下平井保泉院境内「閻魔王坐像」が有形文化財に指定
- 昭和36年(1961年) 五日市線が電化
- 昭和36年(1961年) 日の出村役場平井出張所が廃止
- 昭和38年(1963年) 有線放送業務を開始
- 昭和38年(1963年) 鹿の湯橋が完成
- 昭和39年(1964年) 幸神地区、第一次簡易水道が完成

- 昭和40年(1965年)
 - ・日の出農業協同組合が発足
- 昭和41年(1966年)
 - ・日の出村体育協会が発足
- 昭和42年(1967年)
 - ・第1回村民体育祭が開催
 - ・エントモンチス化石産地が都天然記念物に指定
- 昭和44年(1969年)
 - ・日の出村第3次水道が建設、簡易水道から上水道となる
- 昭和46年(1971年)
 - ・有線放送自動化
 - ・五日市線、武蔵五日市市(武蔵岩井)間旅客営業廃止(岩井駅撤去)
- 昭和48年(1973年)
 - ・日の出団地で家屋の建築が始まる
- 昭和49年(1974年)
 - ・町制が施行、日の出町となる
 - ・世帯数2794世帯、人口は男5336人、女5205人、計10541人
- 昭和50年(1975年)
 - ・町章の制定、記念式典を開催
- 昭和51年(1976年)
 - ・都市公園、日の出団地1、4号公園設置
 - ・水道事業が都営二元化で実施
- 昭和52年(1977年)
 - ・大久野中学校改築
 - ・新設本宿小学校建設
 - ・自然休養村管理センター開設(農林水産物、特産品等の展示と販売)
 - ・観光農業レクリエーション計画の実施(竹の子・いも掘り)
 - ・救急患者のための祝日診療制度を開始
- 昭和53年(1978年)
 - ・日の出町長期総合計画(基本構想)を策定
 - ・本宿小学校が開校
 - ・学校給食センターが建設
 - ・「日の出音頭・小唄」の制定・発表
 - ・塩田トマト園芸組合が設立
 - ・三吉野パークタウン宅地造成が開始
 - ・庁舎建設基金条例の制定
 - ・第31回東京都山の植樹祭(大久野・坊平地区山林)
 - ・本宿小学校体育館建設
- 昭和54年(1979年)
 - ・日の出町長期総合計画(基本計画)を策定
 - ・スポーツと文化の森構想発表
 - ・町民グラウンド整備
 - ・日の出町公共下水道基本計画を策定
 - ・秋多都市計画再検討調査報告策定
 - ・学校給食をセンター方式で開始
 - ・学童クラブを開所(本宿小学校区)
- 昭和55年(1980年)
 - ・町民憲章の制定
 - ・NHKのど自慢実況放送(合併25周年記念事業)
 - ・パークタウン入居始まる
 - ・日の出町総合計画(第一次)「ひので55作戦」スタート
 - ・一般家庭雑排水吸込槽設置費用の一部助成事業開始
 - ・移動図書館車の配置(都立立川図書館むらさき号の譲渡を受ける)、「ひので号」と名称決定(巡回13カ所)
- 昭和56年(1981年)
 - ・文化の森第一期造成工事に着手
 - ・三多摩地域廃棄物広域処分場基本協定書締結
 - ・秋多都市計画市街化区域及び市街化調整区域変更決定
 - ・土地開発公社設立
 - ・日の出町の昔ばなし発行
 - ・志茂町児童館開館



夢ハワー97めざせ日本一/平成9年「夢ハワー97めざせ日本一」にて優勝



NHKラジオ体操/平成7年合併40周年記念NHKラジオ体操



日の出山荘会談/昭和58年レーガン米大統領、中曽根総理大臣と日の出山荘会談

- 昭和57年(1982年)
 - ・大久野小学校肝要分校廃校
 - ・本宿地区学習等供用施設建設
 - ・日の出町高齢者事業団発足
 - ・秋多都市計画下水道、日の出町公共下水道都市計画決定
 - ・進学支度金貸付基金条例施行
- 昭和58年(1983年)
 - ・菅窪地区学習等供用施設建設
 - ・町民グラウンド夜間照明設置
 - ・文化の森第一期工事及び平井中学校落成記念式典挙行
 - ・レーガン米大統領、中曽根総理大臣による日の出山荘会談が行われる
 - ・災害見舞金支給制度制定・発足
 - ・西多摩地域広域行政圏協議会発足
 - ・谷戸沢廃棄物広域処分場に係わる公害防止細目協定を締結
- 昭和59年(1984年)
 - ・大久野小学校改築第一期
 - 昭和59年(1984年)
 - ・工業団地開発整備基本構想策定
 - ・三多摩廃棄物広域処分組合、廃棄物搬入開始
 - ・町制施行10周年記念講演(鈴木健二NHKアナウンサー)の開催
 - ・大久野学童クラブ開所
 - ・公共下水道下水道法事業認可130ha
 - ・大久野小学校改築第二期
 - 昭和60年(1985年)
 - ・町の木(もみ)、町の花(ふじ)、町の鳥(うぐいす)の制定
 - ・合併30周年記念式典、記念講演会、納涼花火大会、町民芸能大会実施
 - ・公民館改修工事が完成
 - ・大久野小学校校庭整備
 - 昭和61年(1986年)
 - ・三吉野油田地区土地改良事業実施
 - ・教育相談所開設
 - ・塩田テニス、ゲートボール場完成
 - ・大雪による森林災害復旧事業
 - ・民間自主防災組織発足と同組織への補助金交付事業開始
 - ・三吉野土地地区画整理事業 都市計画決定
 - 昭和62年(1987年)
 - ・日の出町ユートピアホール基本設計
 - ・平井小学校改築
 - ・保健センター開設
 - ・第40回東京都山の植樹祭(大久野小学校・裏山)
 - ・スポーツ大綱制定宣言
 - 昭和63年(1988年)
 - ・小、中学校の修学旅行等の保護者補助金交付事業の推進
 - ・油田地区土地改良事業
 - ・日の出町交通安全都市宣言
 - ・大久野老人福祉センター完成
 - ・農産物直売所建設工事
 - ・文化の森給水所建設
 - ・三吉野土地地区画整理事業の決定
 - ・第二次長期総合計画(基本構想)「ひので理想郷プラン21」制定
 - ・平井小学校屋内運動場、特別教室改築
 - 平成元年(1989年)
 - ・教育センター建設
 - ・ユートピアホール(庁舎)完成
 - ・町制施行15周年を兼ねた式典、同納涼花火大会開催
 - ・柳橋(道場地区)新設
 - ・日の出商工会設立
 - ・外国語指導助手(ALT)の導入
 - ・都市計画図 日影規制区域の見直し(2月9日)、谷の入、宮本、足下田、谷戸地区の編入
 - ・住民記録オンライン業務開始
 - ・町史「文化財編」発行
 - ・バス路線「松尾」文化の森入口」間を新設
 - 平成2年(1990年)
 - ・ひので理想郷プラン21(第二次基本構想)スタート
 - ・語らいとふれあい広場完成(屋根付きゲートボール場・公園)
 - ・玉の内花菖蒲の里公園整備
 - ・電線地下埋設型街路灯設置(日の出団地メインストリート)

- ・舗装大作戦事業スタート
- ・芸術展国際花と緑の博覧会会場迎賓館展示の洋画作品（森田三三男氏所蔵品）の展示
- ・有線放送電話事業（HYG）29年7カ月の業務廃止
- ・平和都市宣言の制定
- 平成3年（1991年）
 - ・防災行政無線（防災ひので）開局
 - ・ひので福祉村構想発表
 - ・ひのでユートピアサンホーム（福祉作業所）開設
 - ・自治会コミュニティセンター維持管理費（光熱水費）の補助制度導入
- 平成4年（1992年）
 - ・三吉野工業団地誘致企業操業開始
 - ・ゴルバチョフ元ソ連大統領夫妻、中曽根元総理大臣の招きで来町
 - ・多摩木材センター（玉の内地区）建設
 - ・平井川北開発事業を町事業としてスタート
 - ・公共下水道事業供用について一部開始（多摩川右岸八王子処理場）
 - ・日の出診療所改築
 - ・家庭雑排水吸込槽設置補助事業
 - ・スポーツパーク「やすらぎとふれあいの丘」施設オープン
 - ・町史「通史編・上巻」発刊
- 平成5年（1993年）
 - ・ふるさと創生基金日の出版の創設
 - ・本中橋（ユートピアブリッジ）の新設
 - ・温泉井掘削工事（三ツ沢地内）
 - ・高齢者（70歳以上）入院見舞金制度創設
 - ・生涯青春いきいき奨励金支給制度創設
 - ・ひので福祉村宣言
 - ・圏央道日の出インターチェンジ付近建設工事が着工される
 - ・第46回東京都山の植樹祭（相沢沖）
 - ・町制20周年記念日の出夏祭りユー
- トピア93（花火大会）実施
- ・町制20周年記念日の出町の歌「ひので理想郷」制定
- ・TAMARAいふ21「VOICE 93」開催（国営昭和記念公園）
- ・郷土が生んだ偉人「並木伊三郎展」開催
- ・第23回東京都消防操法大会（ポンプ車の部）優勝
- ・ふれあい農産物直売所新装開店
- ・日の出町（仮称）第2廃棄物広域処分場設置に係る基本協定締結
- ・日の出町消防団「消防総監旗」受賞
- ・生涯青春の湯、ひので三ツ沢つるる温泉」誕生
- 平成6年（1994年）
 - ・日の出町婦人消防隊誕生
 - ・在宅看護支援センター開設
 - ・日の出町ユートピアひまわりホーム開所
 - ・「ひので三ツ沢つるる温泉」温泉スタンド・温泉宅配開始。
 - ・シルバー人材センター事務所兼作業所が建設
 - ・大久野中学校特別教室棟、パソコン室、調理室、多目的ホール建築
- 平成7年（1995年）
 - ・秋川流域斎場組合発足
 - ・中野会館が完成
 - ・大久野中学校屋内運動場、特別教室棟完成
 - ・廃棄物広域処分組合二ツ塚処分場公害防止協定の締結
 - ・松尾く阿伎留病院間 路線バス運行開始
 - ・ひので三ツ沢つるる温泉センター着工
 - ・合併40周年記念NHKラジオ体操
 - ・ホームヘルパー民間協力隊発足
- 平成8年（1996年）
 - ・町道補助道第4号線道路改良工事（藤谷街道）着工



ひのでちゃん誕生 / 平成25年
町のイメージキャラクター「ひのでちゃん」誕生



イオンモール日の出 / 平成19年
イオンモール日の出オープン



日の出インター / 平成14年
首都圏中央連絡自動車道「日の出インターチェンジ」開通

- ・天皇皇后両陛下下林業試験場訪問
- ・ひので三ツ沢つるる温泉センターオープン
- ・下水道管渠布設（玉の内、新井谷戸）工事
- 平成9年（1997年）
 - ・「夢パワァー97めざせ日本一」町民一千人参加で人文字の年賀状を作成。本宿小学校校庭からテレビで全国に放送、優勝する
 - ・二ツ塚処分場公害防止細目協定調印
 - ・ひので桜100万本植樹プラン21開始
 - ・都道第165号伊奈福生線道路改良工事（阿伎留病院街道）着工
 - ・日の出町ふれあい広場「花の館」完成
 - ・長井、水口方面循環バス運行開始
 - ・日の出ホームデイサービスセンター開所
 - ・坊平地区多目的広場が完成
 - ・月見草と水の公園グラウンドが完成
 - ・町民体育祭を谷戸沢グラウンドで開催
 - ・ひのでグリーンプラザが完成
 - ・谷戸沢処分場、埋立期間延長調印
 - ・下水道管渠布設（玉の内、萱窪、幸神）工事
- 平成10年（1998年）
 - ・三多摩地域廃棄物広域処分組合二ツ塚処分場一部供用開始
 - ・14年間にわたった谷戸沢処分場の埋立が終了
 - ・二ツ塚処分場の埋立投入開始
 - ・ホーリー駐日アメリカ大使来町
 - ・全町内にわたるダイオキシン類調査実施
 - ・秋川流域火葬場および斎場建設に伴う造成工事安全祈願祭
 - ・三吉野土地地区画整理事業竣工式
 - ・下水道管渠布設（萱窪、下平井、宿通）工事
- 平成11年（1999年）
 - ・残土条例制定
 - ・谷戸沢グラウンドのナイター設備を設置
 - ・日の出団地バス乗り入れ
 - ・千石橋架替工事竣工
 - ・公共下水道事業公設汚水樹を設置
 - ・3768世帯、町総世帯4629世帯の約81パーセントに設置
 - ・下水道管渠布設（宮本、幸神）工事
- 平成12年（2000年）
 - ・第三次長期総合計画基本構想「新ひので理想郷プラン21」スタート
 - ・観光農業の拠点施設「ひので肝要の里」オープン
 - ・介護保険事業スタート
 - ・チャイルドシート無料レンタル事業開始
 - ・福祉タクシー制度の創設
 - ・合併45周年 町制施行25周年記念式典、同記念納涼花火大会開催
 - ・日の出町地域保健福祉計画を策定
- 平成13年（2001年）
 - ・日の出町情報公開条例を施行
 - ・「想い出を語るロマンの杜・ひので斎場」供用開始
 - ・「T講習会（パソコン初心者講習会）スタート
 - ・町内循環超低床型100円バス「ひのでユートピア号」運行開始
 - ・戸籍総合システム稼働
- 平成14年（2002年）
 - ・本宿老人福祉センターオープン
 - ・首都圏中央連絡自動車道「日の出インターチェンジ」開通
 - ・高齢者外出支援サービス事業開始
 - ・町史「通史編中巻」発刊
 - ・住民基本台帳ネットワークシステム第1次稼働
- 平成15年（2003年）
 - ・日米首脳会談記念碑建立
 - ・高齢者外出支援ドリームカー事業開始（現おでかけ支援ドリームカー）

- ・チャイルドシート購入費補助金交付事業開始
- ・「日の出町こんにちは宣言」告示
- ・「日の出町こんにちはサミット2003」開催
- ・住民基本台帳ネットワークシステム第2次稼働
- ・光ファイバーによるブロードバンドのサービス供用開始
- 平成16年(2004年)
 - ・総合行政ネットワーク(LGWAN)接続
 - ・エコセメント化施設起工式
 - ・各種証明書の電話予約宅配サービス試行開始
 - ・谷戸沢廃棄物処分場開設20周年記念事業「多摩環境フェスティバル」開催
 - ・大久野健康いきいきセンターオープン
 - ・「日の出町こんにちは安全・安心まちづくり条例」制定
 - ・日の出町小さな蔵の資料館オープン
- 平成17年(2005年)
 - ・合併50周年町制施行30周年記念事業(記念式典・花火)開催
 - ・「日の出町こども育成基本条例」制定
- 平成18年(2006年)
 - ・次世代育成クーポン交付事業開始
 - ・エコセメント化施設稼働
- 平成19年(2007年)
 - ・「日の出A(安全)・A(安心)大作戦推進大会」開催
 - ・日の出山荘(中曽根康弘・ロナルドレーガン日米首脳会談記念館)オープン
 - ・出産助成金支給事業開始
 - ・「アイコンモールの出」オープン
- 平成20年(2008年)
 - ・東京都新島村と友好協約を締結
- 平成21年(2009年)
 - ・75歳以上医療費無料化事業開始
 - ・町制施行35周年記念事業(式典・オリンピック招致講演会)
 - ・平井生涯青春ふれあい総合福祉センターオープン
 - 平成22年(2010年)
 - ・「住宅用太陽光発電システム」設置経費の一部助成
 - ・第4次日の出町長期総合計画策定
 - ・「日の出町がん医療費の助成制度」が開始
 - 平成23年(2011年)
 - ・日の出町青少年育成支援金の支給制度
 - ・日の出町青少年の医療費の助成制度が開始
 - ・広報日の出、創刊500号発行
 - ・「日の出町商工業振興計画」を策定
 - ・東日本大震災が発生
 - ・日の出町公民館の使用を中止
 - ・「日の出町観光振興計画」を策定
 - ・こども未来公園完成
 - 平成24年(2012年)
 - ・町長室開放事業「ちよとひとつばなし対話コーナー」開設
 - ・「災害時要援護者支援制度」が開始
 - ・西秋川衛生組合「新ごみ処理施設」の起工式
 - ・住民基本台帳人口過去最高人口を更新(16737人)
 - ・「ぐるりん日の出」号運行開始
 - ・職員の資質向上とまちづくり推進に向け「日の出町人材育成基本方針」策定
 - ・(仮称)「野鳥の森」こども自然公園内の散策コースが完成
 - ・「町民の皆さんと町の将来を語る会」の開催
 - ・エコセメント化施設、災害廃棄物焼却残さ(灰)受入について特別協定を締結
 - ・日の出町消防団が第23回全国消防操法大会で準優勝
 - 平成25年(2013年)
 - ・谷戸沢サッカー場(天然芝)が完成



ひので野鳥の森自然公園開園/平成31年
「ひので野鳥の森自然公園」が開園



亜細亜大学と協定締結/平成28年
亜細亜大学と包括的協働・連携協力に関する協定を締結



東京国体/平成25年
スポーツ祭東京2013東京国体「女子サッカー」開催

- ・国体会場へのアクセス道路の通行開始
- ・スポーツ祭東京2013 東京国体「女子サッカー」を開催
- ・日の出町のイメージキャラクター「ひのでちゃん」発表
- ・大久野小学校の校庭芝生化
- 平成26年(2014年)
 - ・こみの戸別収集・有料化開始
 - ・住民基本台帳人口1万7千人を突破(11月1日現在世帯数7307世帯人口17037人)
 - ・「日の出町やまびこホール」完成
- 平成27年(2015年)
 - ・日の出町就労・生活支援センター「あるて」開設
 - ・「元気で健康に長生き医療費助成制度」開始
 - ・第4次日の出町長期総合計画後期基本計画策定
 - ・合併60周年記念事業(花火・記念品)開催
 - ・子ども・子育て支援新制度開始
 - ・土砂災害等ハザードマップ配布
- 平成28年(2016年)
 - ・社会保険・税番号制度(マイナンバー)制度開始
 - ・「日の出町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」策定
 - ・ひのでちゃん行政カード事業開始
 - ・亜細亜大学と包括的協働・連携協力に関する協定締結
 - ・教育委員会事務局学校教育課内に「指導室」設置
 - ・ファミリー・サポート事業開始
 - ・合計特殊出生率が1.82となり、都内順位3位となる。
- 平成29年(2017年)
 - ・ひのでちゃんLINEスタンプ開始
 - ・介護予防・日常生活支援総合事業開始
 - ・「日の出町からの便利帳」発行
 - ・第1回「ひのでマルシェ」開催
- 平成30年(2018年)
 - ・「(仮称)日の出町総合文化体育センター基本計画」策定
 - ・「日の出町公共施設等総合管理計画(ガイドライン)」策定
 - ・第3期橋本町政がスタート
 - ・日の出町観光協会が一般社団法人化
- 平成31年(2019年)
 - ・諏訪下町管住宅建替完了
 - ・町制施行45周年記念事業(横断幕・記念品)開催
 - ・NPO法人日の出スポーツ協会設立(旧日の出町体育協会)
 - ・ひので野鳥の森自然公園開園
- 令和元年(2019年)
 - ・新天皇陛下が即位、令和に改元
 - ・平井小学校・大久野小学校トイレ洋式化
- ・日の出町総合型地域スポーツ文化クラブ「ひのでまちならぶ」が設立
- ・谷戸沢廃棄物広域処分場にて多摩地域最大級のメガソーラー施設稼働開始
- ・勝峰山林道開通
- ・日の出町公式Twitter開始
- ・町内3か所に無料のWiFiスポットを設置
- ・第1回「日の出町観光＆物産フェア」開催
- ・日の出町消防団「東京消防庁消防総監表彰」受賞

日の出町

DATA GUIDE OF HINODE TOWN

資料・統計



日の出町

面積 28.07km²

位置
役場 東京都西多摩郡日の出町大字平井2780番地
標高: 170m

東経: 139度15分42秒

北緯: 35度44分17秒

電話番号042(597)0511(代)

ホームページアドレス <http://www.town.hinode.tokyo.jp/>



町章

ヒノデの「ヒ」を左右円形の図案化したもので、新しい日の出町の円満平和と明るい未来への発展をおおらかにそして力強く象徴したものです。昭和49年町制の施行を記念して公募し、応募総数239点の中から選定されました。

(昭和49年6月1日告示第10号)

町名の由来

昭和30年(1955年)、大久野村と平井村が合併する際、当時の東京都総務局長細田義安氏が日の出山に由来し、日の出の勢いで成長するようにと「日の出村」と命名。

昭和49年6月1日に町制を施行(当時、全国で1976番目)し、現在の日の出町となりました。

町の鳥



うぐいす

町の木



もみ

町の花



さくら



ふじ

もみ・ふじ・うぐいすは昭和60年、合併30周年を記念して公募された中から選定されました。(昭和60年6月1日告示第22号)

さくらは平成9年「ひので桜100万本植樹プラン21」計画を記念して制定されました。(平成9年6月1日告示第42号)

町の人口等 (令和2年1月現在)



町の生活 (平成30年度)

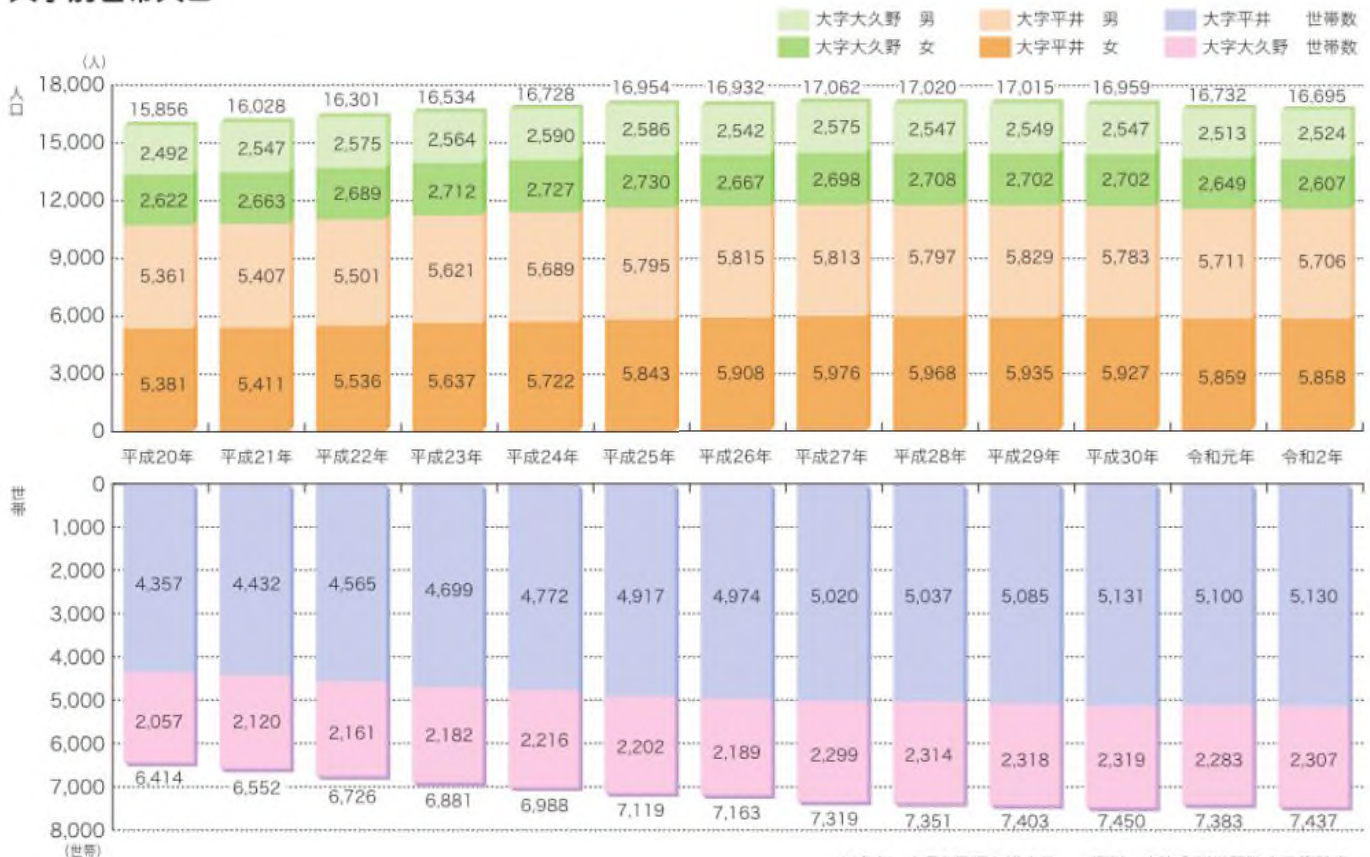
| | |
|------|---------------------|
| 出生 | 1日に 0.2 人 |
| 死亡 | 1日に 0.9 人 |
| 結婚 | 1日に 0.1 組 |
| 離婚 | 1日に 0.1 組 |
| 転入 | 1日に 1.8 人 |
| 転出 | 1日に 1.7 人 |
| 世帯人員 | 1世帯あたり 2.3 人 |

| | | |
|-------------|---------------------|------------------|
| 交通事故 | 1日に 0.2 件 | |
| 火災 | 45.6 日に1件 | |
| 刑法犯 | 1日に 0.4 件 | |
| ごみ | 1人1日あたり 794g | |
| 町民税 (個人) | 1世帯 | 109,907 円 |
| | 個人 | 48,653 円 |

※表記のあるもの以外は、平成30年1月1日から平成30年12月31日までの数値
資料：(交通事故、火災、刑法犯)「数字で見る西多摩(平成31年3月)」

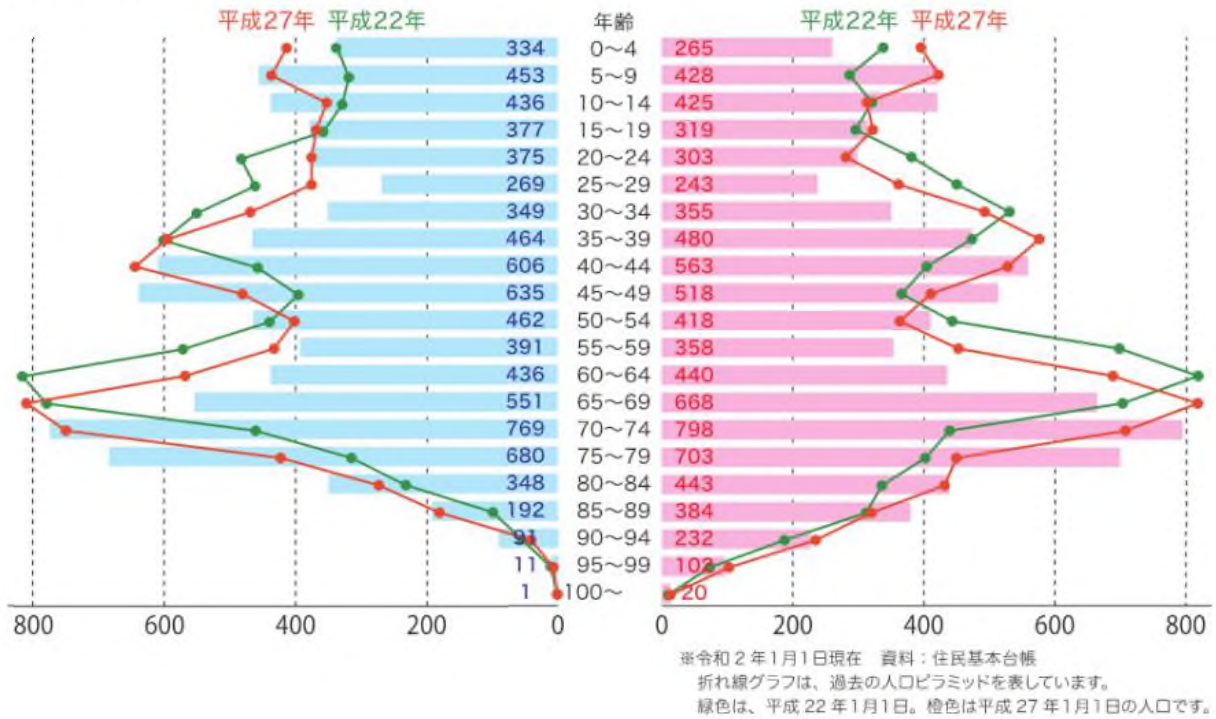
資料：町民課

大字別世帯人口

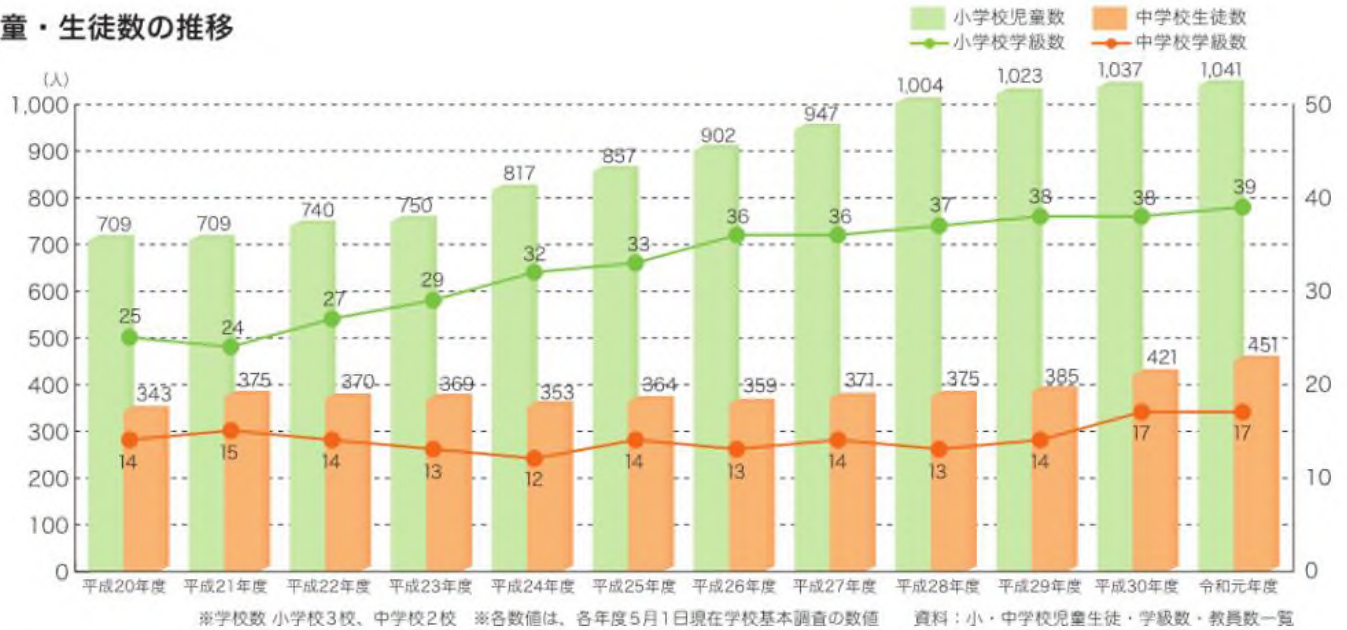


※各年、1月1日現在総人口 資料：自治会別世帯数人口集計表

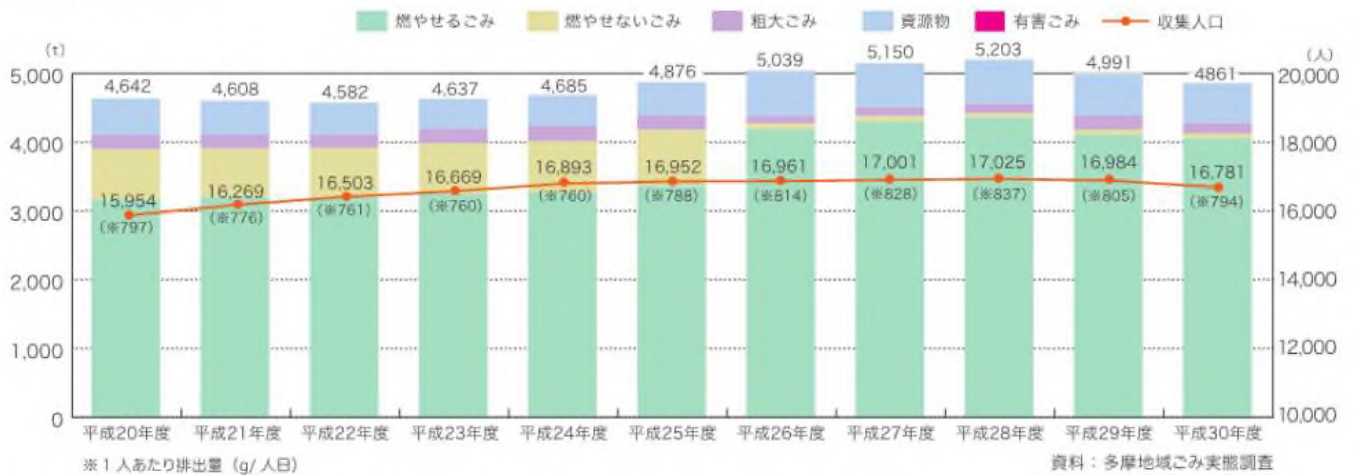
5 歳階級別男女別人口



児童・生徒数の推移



ゴミ収集処理状況





日の出町から誕生した
絶品グルメ



国天然記念シダレアカシデ
大久野老人福祉センター



“日の出町イメージキャラクター
「ひのでちゃん」”

日の出町の自信作
地元特産品

日の出町イラストマップ





大久野の神酒の口

神酒の口は、神棚に供える神酒徳利の口に挿す竹細工のお飾りで、年に一度正月に差し替えており、多摩地域の農閑余業として秋の収穫後の冬の年中行事の一環として作られていました。現在も青梅市や日野市で製作者がいるようですが、故・森谷恒雄さんのような完成度の高い作品を残している例は、稀有で貴重と思われます。

大久野の森谷家では、「十五帆掛け宝船」「七ツ玉宝船」「三ツ玉宝船」「一ツ玉」「丸」「男福のり」「女福のり」「万年青(おもと)」「水仙」「のし」「明賀(茗荷)」「福寿草」の12種類が伝承されています。

東京都
2020 日の出町
町勢要覧
Hinode Machi

発行 ● 東京都西多摩郡日の出町
発行日 ● 2020年4月
企画・編集 ● 日の出町役場企画財政課
TEL042-597-0511(代)
URL <http://www.town.hinode.tokyo.jp/>
制作・印刷 ● 株式会社サンニチ印刷

